

湘南藤沢学会 「研究助成基金」 成果報告書

国際学会 Pattern Languages of Programs Conference 2016 (PLoP16)における「Pattern Symbolizing Patterns -Showing the content and value by expressions to encourage intuitive comprehension」の発表

環境情報学部 4年 柴田汐理

1. 活動日程・場所

10月21日～10月28日 アメリカ・シカゴ

2. 活動の目的

本研究では、パターンを読み手により共有しやすくするため、パターンの内容と価値の直感的理解を促す表現であるパターン名、パターン・イラスト、読み物の編集をよりよくするための121のパターンをまとめたものである Pattern Symbolizing Patterns を作成した。本活動では、その作成プロセスと期待される効果をまとめた論文「Pattern Symbolizing Patterns -Showing the content and value by expressions to encourage intuitive comprehension」(Shiori Shibata, Sakurako kogure, Hitomi Shimizu, Takashi Iba)をアメリカで開催される国際学会 PLoP16 にて発表した。

3. 研究の成果

今回の論文執筆を通じて、パターンを執筆する段階において、パターン名やパターン・イラストがパターンを象徴する重要な要素であることを明確にすることが出来た。

学会にて開催されたワークショップでは、ソフトウェアなどの人間行為とは異なる分野でパターンを書いている方々にも、興味関心を持ってもらえたことを実感した。「パターン名がパターン執筆の際に重要な要素であるか?」という根本的な問いに対し、「重要な要素である」とコメントして下さった方が多く、本研究のテーマがあらゆる分野でのパターン執筆に役立つという発見をすることが出来た。

また、今後論文をより良く修正していくにあたり、他の論文著者6人から論文に対するコメントをいただいた。まず一つ目に、論文で紹介したパターン一つひとつについてコメントをいただいたが、抽象的な概念のパターン名が伝わりづらく、再考する必要性を感じた。また、今回の論文では Pattern Symbolizing Patterns の中でもパターン名にフォーカスして書いたが、論文の表題に関しては Pattern Naming Patterns とした方が伝わりやすいとのコメントをいただいた。



学会でのワークショップの様子

4. 今後の発展

今回の学会に提出する論文の最終修正を行う。最終提出の2月15日に向けて、ワークショップでいただいたコメントを基に修正し、最終確認を完了させる予定である。

また、今回発表したパターンをより活用しやすく修正し、パターンを追加することも必要であると感じている。今後も、井庭崇研究室でのパターン執筆や、総合政策学部授業「パターン・ランゲージ」、またパターン・コミュニティーにて Pattern Symbolizing Patterns をパターン執筆に活用させていく予定である。

5. 謝辞

ご指導いただいた井庭崇先生をはじめ、井庭研究室のメンバー、そして研究発表を行うにあたり助成金をいただいた湘南藤沢学会様にも心より御礼を申し上げます。